すずらん

NO. 23

発行日：2007年3月20日
発行元：社会福祉法人すずらんの会　理事長　大長　義信
〒228-0828　相模原市麻溝台7-1-7　TEL　042-749-8881
URL　http://www.suzuran.or.jp　E-mail　kouhou@suzuran.or.jp
✏「すずらん」へのご意見・ご要望・ご感想などありましたら、ぜひ電話、メールを送ってください。

すずらん２３号　内容紹介

特集：新たな挑戦　大和市自立支援センターで喫茶店と就労移行支援事業スタート　ワークショップＳＵＮ（就労移行支援事業所）スタート
理事長巻頭句　すずらんの会通信講座④　すずらんの会から発信します（グループホーム　グリーンハウス分場　就労支援）
すずらんの家活動のひとコマから　広げよう職員の輪っ！　ご寄付をいただきました　後援会からのお願い　編集後記

特集　新たな挑戦

大和市障害者自立支援センター
Cafe　ふらっと　オープン！！

３月１９日（月）、大和市障害者自立支援センターの**Cafe ふらっと**がオープンします。
地域交流事業の一環としての業務となりますが、**Cafe ふらっと**はそんな堅苦しい説明が似合わない、気軽な雰囲気のカフェになります。

センター内の「交流空間」の中に設置されたカウンターがCafeスペース。
風通しも陽当たりも良いので、地域の方々が、ほっと一息、春の午後を過ごすにはぴったりの場所なると思います。また、お客様にくつろいでいただけるよう、椅子の高さを考え、足の置き場や荷物置き用のカゴを用意するなどちょっとした工夫も、施してあります。
カフェのオープンにあたって、職員は本当の喫茶店で修行してきましたので、コーヒーの入れ方や味にはちょっと自信があります。（続きは２面へ）

巻頭言

社会福祉法人すずらんの会
理事長　大長　義信

今年は超の付く暖冬であったが、過ごし易さを喜んでばかりはいられないような地球温暖化の空恐ろしい将来予想が報じられた。地球上の平均気温が今より僅か数度上昇することにより世界中で水没と干ばつが大規模に発生する計算になるらしい。ここに来てようやく世界規模の温暖化対策が動き出す気配である。

我々を取り巻く福祉の分野もまたまさに地殻変動の真っ只中にあり、将来展望の持てない難しい時代に遭遇している。経営とは無縁の運営に安じてきた多くの法人に、いきなり「法人経営」を迫られてもどうしたものかと戸惑うばかりである。

さりとて自然淘汰に身を委ねる訳にもいかない我々は、土曜稼動や定員増など善悪は別にした当面可能な苦肉の策に走っているのが現実の姿である。

激変緩和策なる話も聞こえているが中身は焼け石に水といった所のようで、結局は自ら懸命な経営努力しかないという初めから分かっていた所に落着かざるを得ない。わが法人としては幸いなことに、「一法人一施設」からは先駆的に脱却して複数事業を手掛けてきたので、このスケールメリットを生かした経営ができるのではないかと考えている。いずれにしても十九年度が法人の真価を問われる年になるのは間違いがなく、職員全員に法人全体を視野に入れた考え方と行動が求められる。

Cafe ふらっとオープン！！

大和市障害者自立支援センター特集Ⅰ

Cafe ふらっと　名前の意味。

・障害の有無に関わらず、誰でも利用できるフラットな場所でありたい。
・バリアフリーな、フラットな作りの店内であること。
・気軽に“ふらっと”立ち寄れることができるカフェでありたい。

（１面からの続き）　お勧めメニューは、１杯１杯、豆を挽いて入れる本格コーヒーです。

挽き立てのコーヒーに細口ポットでお湯を注ぎ、充分蒸らしてお客様にお出しします。注文を頂いてから豆を挽いて入れますので、新鮮なコーヒーの味を楽しんで頂くことが出来ます。

やわらかな深い香りとこくのあるブレンドコーヒーを是非一度ご賞味下さい。なお、一杯のご注文につき、お替り一杯は無料となります。はじめは飲み物のみの提供ですが、徐々に手作りケーキやクッキー等も提供していく予定です。お近くにお越しの際には是非“ふらっと”お立ち寄りください。【大和市障害者自立支援センター　宮野】

“Cafe ふらっと”
大和市鶴間 1-19-3　大和市障害者自立支援センター内
TEL：046-265-5198　FAX：46-269-0238

大和市障害者自立支援センター特集Ⅱ　２年目は新法の法内化へ、新たな歩み

当センターは、昨年４月に大和市が設立し、すずらんの会が指定管理者として事業運営をおこなっています。この４月からは、障害者自立支援法に基く就労移行支援事業所、指定相談支援事業所として県に指定事業所申請をします。２事業の他に、自主事業として地域交流事業及び地域との連携・調整事業が継続されます。

就労移行支援事業と相談支援事業は、従来の知的障害者・身体障害者に加えて精神障害者が対象者となります。相談支援専門員には、新たに精神保健福祉士の有資格者が配置されます。大和市の指定相談支援事業所は、当センターの他に２事業所が予定されています。地域との連携・調整事業では、市内相談支援事業所との連携を図っていく目的で、市から委託を受けて地域自立支援協議会を主管します。又、相談支援事業の拠点として、大和市障害者就労支援連絡調整会、同障害児支援関係機関連絡調整会の事務を担当します。

就労移行支援事業の定員は 20 名、今後、従前以上に就労実績が問われていくことになると思います。個別支援の充実、職場開拓、職場との関係強化等を課題に職員一同励んでまいります。【大和市障害者自立支援センター長　星野】

すずらんの会通信講座④

今回は、話題の「食」について講座をお送りします。

テーマ：「健やかな心とからだは、食事から」

よく言われる「食育」とは、子どもたち一人ひとりが食べることの意味を理解し、自立的に食を営む力を育むことです。この考え方は、大人の私達にも関係していますのでご紹介をします。「食」の体験を豊かに重ねることによって、楽しい食生活を自分自身の生活習慣に組み入れることができるようになります。それは生涯にわたって、健康で質の高い人生を送ることになります。

【心と育ちの食事５か条】

①からだで感じるおいしい食事
おいしくいただく食事を通じて、食べ物の働きを知り色々な食品をバランスよく食べる大切さを知りましょう。

②みんなでいっしょに楽しい食事
家族や仲間といっしょに食べることで会話が生まれ一層おいしく感じます。マナーや習慣も育てていきましょう。

③育ちといのちを感じる食事
自然の恵みやいのちの大切さを感じ、つくる人や食べ物への感謝の気持ちを持ちましょう。「いただきます」「ごちそうさま」を大切に。

④つくって楽しむ食事
料理つくりやお手伝いを体験し食べる楽しみや役立つことを知りましょう。

⑤過去から未来へと伝える食事
食と地域のつながりに関心を持ち、未来へ食文化を伝えましょう。

【調理担当栄養士　岩淵】

すずらんの会から発信します

✎すずらんの会の各事業所から日ごろの考えや取り組みを発信します。

ホームすずらんの現状と課題

平成十八年十月から九つのグループホームをまとめて「ホームすずらん」として運営しています。利用者の皆さまの実態調査をしてみました。

定員：五三名
（男性二四名　女性二九名）
平均年齢：三三．七歳
（最高六三歳　最年少二０歳）
年齢構成：二０代・四二％
三０代・三七％
四０代・一四％
五０代・六％
六０代・一％
利用者の日中活動：就労三五％
法人内施設利用六五％
出身市町村：相模原市内六六％
市外三四％
１ヶ月生活費：平均五三０００円（週末食事代　こづかい　交通費は除）

【ホーム代表　遠藤】

ホームでの様子

ホームでの生活では、「自分のことは自分でする」「自分のできることは進んでやる」ということを目標に支援をしています。ホームでは利用者皆さんに関するハプニングは当然あります。時には、支援者として、利用者の皆さんの背景にある家族関係や生活環境もご本人に重く圧し掛かり、問題を増幅させていると感じる時があります。しかし、皆さんの笑顔に支えられがんばっています。

【さんとらっぶ世話人　山本】

グリーンハウス分場の取り組み

「働きたい」という気持ちにこたえようと、平成一七年四月、大和市に授産施設として開所しました。グリーンハウス分場の特徴は、施設内作業と施設外作業があるということです。施設内作業は、キャラクターグッズのシール貼りやコアテープの巻き作業を主におこなっています。また、施設外作業では、物流会社で清掃、破材処理、食品製造会社では、原料出しや積み込み作業をおこなっています。就労を目標とした取り組みの中で、施設内作業ではあいさつ返事などの社会的マナーの習得、作業態度や意欲を見極めます。施設外作業では、企業における人間関係を通じて、就労とはどういうものか、就労する為には何が必要かを経験し、就労へ移行していきます。

また、平成一八年四月からは、土曜日に老人ホームでのボランティア活動やパソコン操作訓練を取り入れてきました。

様々な活動で共通している点は、「地域で活動している」ということです。地域で活動することは、ある意味、リスクを伴う活動であると思いますが、一方では、チャンスが多くあるのではないかと思います。少しでも利用者の方々が地域で活動することにより、地域社会での理解が深まり、利用者の皆さんが地域で活躍できるきっかけになればと思います。

「地域社会の中で誰もがバリアフリーな暮らしを営むことができるようになる」：そのような思いを実現させる為日々取り組んでいます。

【グリーンハウス分場　宮原】

障害者への就労支援の現状と課題

すずらんの会では創立来、就労移行を視野に入れた支援に取り組んできました。その結果、施設からの就労率が全国平均一％と言われる中、例えば、ワークショップフレンドでは、ほぼ毎年、十数名（約二十％）の就労者が社会へ出ています。昨今、自立支援法の下で就労移行支援がクローズアップされました。法人としては、独自に、しかし、当たり前に取り組んできたものが、正に日の目が当たるようになったのです。しかし、一方では制度の矛盾や社会の構造的な問題も見え始めてきました。

１つ目は、施設から就労者を送り出すことを支援すればするほど施設の経営が脅かされるということです。施設から一般就労することは、ご本人や企業が安心して就労に向かっていける後ろ盾となるのです。従って、施設が一般就労を目的とすることは、大切な役割の一つなのです。その施設が安定して運営されるということは極めて大切なことです。２つ目は、働く障害者が人手不足だと言われている点です。企業の社会的責任、法令順守という視点から障害者雇用が進むことは大変よいことです。それが浸透し前述の様な現象が起こりつつあるそうです。しかし、現状は、働きたいが働けない状態にある人は大勢います。私たち支援者はもちろん、企業でも本来のノーマライゼーションの考えに立った雇用機会を検討する必要があると思います。まだまだ課題は山積しています。しかし、少しでも現状が改善されるよう取り組むしかありません。法人では、４月から、第一号職場適応援助者による支援を始めます。多くの人の夢と希望がかなうよう支援をしていきたいと思います。

【就労支援　矢島】

特集　新たな挑戦

ワークショップ・フレンド分場

ワークショップ・ＳＵＮ（就労移行支援事業所）へ

ワークショップ・フレンドの支店のような形で運営されてきた、ワークショップ・フレンド分場が自立支援法の施行に伴い、平成１９年４月１日より新たにワークショップ・ＳＵＮに名称を変更して、就労移行支援事業へと移行する事になります。運営する場所などは変わらず、定員が現在の１８名から２５名となり、新たなメンバーを加えてのスタートとなります。

現在のワークショップ・フレンド分場は、就労を目指している方が多く利用されています。今後さらに、それぞれの事業所がそれぞれの役割を持った事業を展開していく中で、ワークショップ・ＳＵＮは、就労支援に重点をおいた施設へと変化していく事になります。それと同時に、今まで授産施設として大きな目標に掲げてきた高工賃の支払いも、徐々に軌道に乗り、だいぶ安定した収入を得られるようになってきました。今後もさらに安定した収入の確保と、作業を手段とした作業訓練を行いながら、利用する方が目標としている就労までの間、少しでも多くの給料を支払えるよう努力して参りたいと思います。今後も利用される方の「働きたい！」という気持ちを大切に、ひとりひとりが力を発揮出来る事業所を目指し進んでいきたいと思います。

【ワークショップ・フレンド分場　佐々木】

後援会からのお願い

すずらんの会後援会では、会員・賛助会員としてご協力いただける方を募集しております。
詳しくは、下記の連絡先までご連絡いただければ幸いです。

〒２２８－０８２８
相模原市麻溝台七の一の七
すずらんの会グリーンハウス内
すずらんの会後援会
０４２－７４９－８８８１

ご寄付をいただきました

ＫＹＢ労働組合　様
住友スリーエム労働組合　様

この場をお借りいたしまして、すずらんの会より感謝申し上げます。ありがとうございました。

すずらんの家（地域活動センター）「活動のひとコマから」

玄関の戸を開くと甘い香りが漂ってきます。

すずらんの家では、ケーキやクッキーの製造・販売をしています。おいしいお菓子が焼き上がるように「笑顔の職人」をめざして十五名の方が利用しておられます。

仕込み班・オーブン班・包装班の三班で構成し、各班の打ち合わせで一日の仕事の分担をみんなで話し合って作業をスタートさせます。材料の購入から製品の完成まで全員で関わり、それぞれの仕事が作業工程に入りますので製品の完成は利用者の達成感につながっています。お客様にお届けして「おいしい」とのお言葉を頂くことが一番嬉しく、頑張りの源となります。

作業のほかには、行事の年間計画に基づいてハイキングやボーリング、カラオケなどを楽しんでいます。毎月の給料から貯金を積み立てて行く一泊旅行は仕事の励みになっています。昨秋は、三重県の長島温泉まで新幹線で行って長年の夢を果たしました。

皆様からのお菓子のご注文をお待ちしています。

ご注文・お問い合わせ先　相模原市南台六の二の十七　すずらんの家
電話０４２（７４７）２４１８

【所長　見元】

出来上がったクッキーの袋入れ作業の一場面です。

広げよう職員の輪っ！

前回ご紹介した、ワークショップ・フレンドの角が紹介するのは、「タートル職員」の飯島智春さん（通称：ジャニーズシニアと言います）をご紹介いたします。新婚間もない彼（ちなみに新妻は容姿端麗な女性です!）は、何事も前向きで明るく「タートルの運営」や「フェスタすずらん」では八面六臂の働きをし、若手男性職員No1！の存在感があります。

編集後記：今年度最後の広報誌はいかがでしたか。すずらんの会のスタッフたちがどんなことを考え、日頃の支援に取り組んでいるのか、少しでもご理解いただけるとありがたいと思います。今後も一歩先行く「すずらん」にご期待ください！！【広報委員会】